

○ 全国各地の小売店等において、みえるらべるを表示した農産物等の販売が広がっている。

マックスバリュ（北海道、岩手、愛知、沖縄）：スーパー

・北海道の店舗で玉ねぎ、岩手県の店舗でミニトマト、かんしょ、愛知県の店舗でなす、沖縄県の店舗できゅうりを販売。



ドン・キホーテ（沖縄）：ディスカウントストア

・化学農薬・化学肥料不使用で栽培されたきゅうりを販売。



イオン東北（岩手）：スーパー

・化学農薬の使用を最小限に栽培されたミニトマト、かんしょを販売。



エレナ（長崎、佐賀）：スーパー

・意欲ある地域の若手農業者が「見える化」に取り組む。
・緑肥の投入など環境に配慮して栽培されたキャベツ、にんじんを使用した千切りキャベツ、ミックスサラダを販売。



グリーンコープ生協（九州、広島、山口）：宅配

・化学肥料不使用で栽培された白ねぎを販売。

神明（全国）：米穀卸売

・化学農薬・化学肥料の使用低減や生物多様性保全に取り組む、JAみやぎ登米、JAたじまの米を全国のイオン等で販売。



道北アークス（北海道）：スーパー

・環境に配慮して栽培した白ねぎ、玉ねぎで「見える化」に取り組み、販売。



イオン北海道（北海道）：スーパー

・北海道内のイオン全店舗において、化学農薬・化学肥料を減らし、緑肥を投入して栽培された玉ねぎを販売。



マイヤ（岩手、宮城）：スーパー

・化学肥料不使用で栽培されたかんしょ、ばれいしょ、白ねぎ、大根を販売。



秋田県立増田高等学校（秋田）：学校

・生徒が環境に配慮して育てた米でGHG削減貢献・生物多様性保全の両方で星3つを取得。
・校内や地域イベントのほか、令和6年11月に東京・大丸の催事において生徒自らが対面販売。



東北の「見える化」販売先

（R6年12月1日時点）

米

道の駅なかせん 野菜直売所 フレッシュ野菜どんぱん（秋田県大仙市長野字高畑95-1）
期日：令和6年6月10日（月曜日）～

米

イオン前潟ふるさと百貨もちおかん（岩手県盛岡市前潟4丁目7-1）
アネックスカワトク（岩手県盛岡市緑が丘4-1-50）
ROOM DESIGN（岩手県盛岡市本宮6丁目23-27）
まちおこしセンターしずくCAN（岩手県岩手郡雫石町上町南19-19）
南部マルシェぞっこ広場（岩手県盛岡市上厨川野子107）
期日：令和6年9月20日（金曜日）～

ミニトマト

イオン盛岡南店（岩手県盛岡市本宮7丁目1-1）
期日：令和6年7月～

かんしょ、ミニトマト

イオン一関店（岩手県一関市山目字泥田89番地1）
イオン前沢店（岩手県奥州市前沢向田2丁目85）
イオンスタイル江刺（岩手県奥州市江刺八日町1-9-48-1）
イオン江釣子店（岩手県北上市北鬼柳19-68）
マックスバリュ北上店（岩手県北上市里分4地割77）
マックスバリュ紫波店（岩手県紫波郡紫波町北口詰字下東ノ坊71-1）
イオンスタイル矢巾（岩手県紫波郡矢巾町矢幅第7地割413）
マックスバリュ西根店（岩手県八幡平市平館第25地割286）
マックスバリュ花巻店（岩手県花巻市中根子字堂前55）
マックスバリュ石鳥谷店（岩手県花巻市石鳥谷町八幡3-9-1）
イオン盛岡南店（岩手県盛岡市本宮7丁目1番1号）
イオン盛岡店（岩手県盛岡市前潟4丁目7-1）
マックスバリュ盛岡駅前北通店（岩手県盛岡市盛岡駅前北通11-1）
マックスバリュ盛岡中屋敷店（岩手県盛岡市中屋敷町9-25）
期日：（ミニトマト）令和6年7月～9月
（かんしょ）令和6年10月25日～

かんしょ、ミニトマト

マイヤ大船渡店（岩手県大船渡市大船渡町字野々田156-19）
マイヤ大船渡インター店（岩手県大船渡市立根町字堀の内10-1）
マイヤ赤崎店（岩手県大船渡市赤崎町字諏訪前38-13）
マイヤ高田店（岩手県陸前高田市高田町字館の沖303番地2）
マイヤアップルロード店（岩手県陸前高田市米崎町字道の上67-1）
マイヤ釜石店（岩手県釜石市鈴子町8番地1号）
マイヤ野田店（岩手県釜石市野田町2-3-1）
マイヤマスト店（岩手県上閉伊郡大槌町小鍵第27地割字花輪田34-1（シーサイドタウン・マスト内））
マイヤ千厩店（岩手県一関市千厩町千厩字古ヶ口88）
マイヤ花泉店（岩手県一関市花泉町涌津字二ノ町22番）
マイヤ水沢店（岩手県奥州市水沢字八反町12番地）
マイヤ気仙沼バイパス店（宮城県気仙沼市字赤岩石兜50番地）
マイヤ気仙沼北店（宮城県気仙沼市東八幡前101-1）
マイヤ本吉はまなす店（宮城県気仙沼市本吉町津谷新明戸200）
マイヤ青山店（岩手県盛岡市青山1-19-1）
マイヤ仙北店（岩手県盛岡市西仙北一丁目38番30号）
マイヤ滝沢店（岩手県滝沢市鶴飼狐洞316番地）
マイヤアルテ桜台店（岩手県花巻市桜台1-12-12）
マイヤびはんストアオール店（岩手県下閉伊郡山田町川向町6-6）
マイヤびはんストア豊間根店（岩手県下閉伊郡山田町豊間根第2地割70-2）
期日：（ミニトマト）令和6年7月～9月
（かんしょ）令和6年10月～

米

道の駅雫石あねっこ（岩手県岩手郡雫石町橋場坂本118-10）
産直松の実（岩手県岩手郡雫石町長山早坂70-9）
期日：令和6年11月21日（木曜日）～

J-クレジット中干し期間延長 の取組事例

J-クレジット中干し期間延長とは・・・

- J-クレジット中干し期間延長とは、所定のプロジェクト登録を行い、中干し期間を直近2か年の実施日数の平均より7日間以上延長すれば、水稻作付け面積と水田の所在地域・排水性・施用有機物に応じた削減量分のクレジットが認証され、クレジットを他者へ販売することで収益を得られる仕組みのことです。
- 直近2か年の中干しの実施日数等の生産管理記録が必要です。

所在地

岩手県
奥州市、
金ケ崎町

取組面積

746.7ha
30経営体
(令和6年度実績)

生産者説明会の様子 (R6.3.25)



J-クレジット中干し期間延長に取り組んだきっかけ

- 生産者の所得を少しでも上げるべく、新たな費用負担なく始められる収入源としての効果を期待して取り組み始めた。

取組状況、収量に対する影響

- 取組初年度は、試験的に生産規模が3ha以上の生産者に参加を限定した説明会を実施し、参加者を募った。
- J-クレジットの販売収益は、日減水深の差等で変動があり、令和6年度は2,187円～4,380円/10aの収益となった。このうち80%が生産者手取りになる。
- 中干し期間中に適度に雨が降ったこともあり、収量に影響が出たという話は聞こえてこない。
- 生産者への指導や中干し延長の抜き打ち調査等について、J-クレジットプログラム事業者からの委託を受けて実施することで収入が得られる仕組みであり、JAとしても収入源になっている。

今後の取組方針

- 初年度は日減水深を測定する手間がかかるものの、翌年度以降はそれが不要となり手間が削減されることから、令和7年度はさらに700ha超の申請があっても耐えきれぬ見込みである。面積に関わらず希望者が取り組めるよう募集を予定している。

所在地

岩手県
一関市、
平泉町

取組面積

約500ha
42経営体
(令和6年度実績)

農業者向け説明会の様子 (R6.12.12)



J-クレジット中干し期間延長に取り組んだきっかけ

- 10年後を見据えた米生産に取り組みたいと考えており、環境に配慮した生産がスタンダードとなると予測していた。
- J-クレジットのバイオ炭に取り組もうと試行錯誤していたところ、中干し延長もJクレジットの対象となることを聞き、単純に中干し1週間延長で収益になるハードルの低さを感じて取り組んだ。

取組状況、収量に対する影響

- 令和6年度から取り組み始めたが、システム申請画面が開発中だったこともあって、画面の項目が変更となることが何度あった。現在は落ち着いており、申請項目が確立されている。
- J-クレジット販売収益は、1,500円/10a～3,000円/10a程度の収益となった。雨もあって生育に対する影響も出なかった。
- 中干し延長には新しいコストもかからず、収量に影響が出そうになったら(Jクレジットの収益は得られないが)中干しを中断したら良いだけでペナルティも発生しない。取り組みやすさがある。

今後の取組方針

- 令和7年度も取組拡大を目論んでおり、令和6年12月に農業者向け説明会を実施。プロジェクト事業者からJ-クレジットの概要やマニュアル、取組事例等を紹介してもらい理解を深める。

所在地



経営規模

水稻：90ha

大豆：40ha



白鳥代表取締役

中干し延長の様子（17/17日目）



J クレジット中干し期間延長に取り組んだきっかけ

- クレジットのプログラム事業者からの営業があったことをきっかけに、小遣い稼ぎにでもなればと思って取り組み始めた。

取組状況、収量に対する影響

- 令和5年度は約50haのほ場で中干し延長を実施した。結果、意図した適切なタイミングで中干しをスタートできたので、生育や収量に影響なく実施できた。
- 令和6年度は約90haのほ場で中干し延長を実施した。
- 令和6年度は水不足の影響で水が来なかったこともあって、予定より早く中干しがスタートしてしまい、生育や収量に対する影響を懸念していたが、7月に入ってから水不足も解消したこともあって、結果的には生育や収量に対する影響は無かった。
- Jクレジットの販売収益は、令和5年度の実績で、50haの取組に対し120万円（2,400円/10a）程度だった。

今後の取組方針

- 収益が得られるうちは、継続して取り組んでいきたい。

所在地



取組面積

1103.8ha

101経営体

（令和6年度
Jクレジット申請状況）

宮城県
栗原市、気仙沼市、南三
陸町、登米市、富谷市、
大和町、大郷町、大衡村、
大崎市、涌谷町

生産者向け説明会の様子（R5.3）



J クレジット中干し期間延長に取り組んだきっかけ

- 米の取引先からプログラム事業者の紹介があり、生産者の所得に対するメリットを見込んで、令和5年度からスタートした。
- 追加の資材や高価な資材を使用しなくても収入につながることが生産者から好評で、継続して取り組んでいる。

取組状況、収量に対する影響

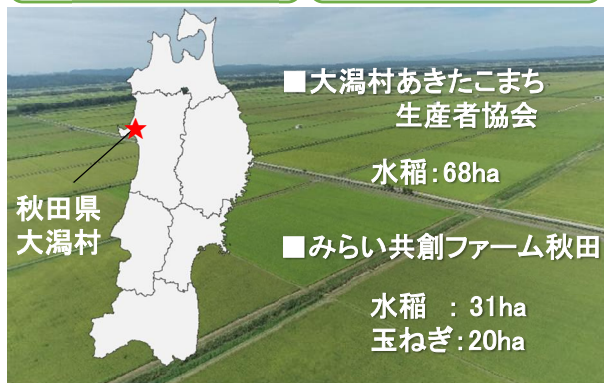
- 令和5年度に試験的に中干し延長に取り組んだほ場は、堆肥の施用が継続的に行われてきた「地力の高いほ場」だったこともあり、収量や品質への影響は生じなかった。
- Jクレジットの販売収益は、令和5年度は平均して1,590円/10aの収益となった。令和6年度は平均して2,300円/10a程度の収益となった。

今後の取組方針

- 令和7年度は6年度取組み実績の無い地区において、大規模生産者と試験的な取組みを行う予定。大幅な取組み増加の見込みは無い。
- 令和6年度の申請者大幅増に伴いオンライン申請の活用を促したが、自力でオンライン申請完了までこぎ着けられなかったケースも多くJAの事務負担が増大したため、来年度以降の申請受付にあたっては対応を検討している。

所在地

経営規模



中干し延長の様子（18/23日目）



J -クレジット中干し期間延長に取り組んだきっかけ

- みらい共創ファーム秋田は、大潟村あきたこまち生産者協会、秋田銀行、三井住友銀行等が合同で設立した農業法人。
- 令和4年度、三井住友銀行の紹介で、大潟村あきたこまち生産者協会とみらい共創ファーム秋田、クボタの3社が連携。環境負荷低減に繋がる新たな挑戦として、中干し延長の実証に取り組開始。令和5年度にはクボタのプロジェクトがJ-クレジット制度の認証を受け、収益化へ。

取組状況、収量に対する影響

- 令和5年度は、粘土質のほ場2社合計94haで取り組み、114万円の収益(1,212円/10a)を得ることができた。1週間の中干し延長を実施したが、延長したことによる生育に対する影響は出ず、収量を確保することができた。
- 令和6年度は、砂地も含む全ほ場2社合計99haで中干し延長に取り組み、373万円の収益(3,767円/10a)を得ることができた。砂地ほ場においても生育・収量に対する影響は出なかった。
- 令和5年度の実証時には、日減水深の報告をメールで行っていたが、令和6年度からはシステムからほ場毎に申請ができるようになり、便利になった。

今後の取組方針

- これまでの取組実績から品質や収量への影響が限定的であることを確認、継続的に取り組みたい。環境負荷低減に繋がる取組、また申請方法は容易であるため、まだ取り組みしていない生産者等に積極的に推奨していきたい。

所在地

経営規模



中干し延長の様子（13/16日目）



J -クレジット中干し期間延長に取り組んだきっかけ

- F.A.I.Nメンバーから紹介があり、収益向上を目的に取り組み始めた。

取組状況、収量に対する影響

- 令和5年産より中干し延長に取り組んでおり、30.5haで約50万円の収益(約1,600円/10a)だった。収量は平年比20kg/10a減少したが、必ずしも中干し延長による減収とは言えず、夏季の高温が影響しての減収だったと考えている。
- 令和6年産も中干し延長に取り組み、30haで100万円の収益(約3,300円/10a)予定である。程よく雨が降っていることもあって、中干し延長による生育に対する影響はみられなかったが、その後の豪雨で減収となった。
- 中干し延長に取り組むにあたって、根の伸長を阻害するくらいのひび割れが生じたら、中干しを中断しようと思っている。中断によるペナルティも無いため、リスクも少なく取り組んでいる。
- 水稻農家の研修は中干し期間中に行われることが多いが、中干し延長によって見回り回数を減らすことができたため、追加でもう1つ研修を受けられるようになった。

今後の取組方針

- リスクが少ないため、引き続き中干し延長に取り組む予定である。